（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成３１年度　学校自己評価システムシート（県立　川口青陵　高等学校）

目指す学校像	地域と連携して自立を支援し、「進んで学び、実践できる生徒」を育成する学校

重　点　目　標	1　学習支援を充実させ、生徒に「学ぶ楽しさ」を体験させることで、「主体的・対話的で深い学び」を促す。 2　基本的生活習慣の確立から自律心と社会性を身に付けさせ、３年間を見通した進路指導を実現する。 3　学校の情報発信と地域との連携を積極的に推進し、社会に貢献できる生徒を育成する。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者　学校関係者　　名
　　生徒　　名
　　事務局（教職員）　　名

学校自己評価							学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）		実施日　平成　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ○生徒の学習時間の確保とさらなる増加に結びつくような授業の進め方の改善や教員相互授業観察を実施するなどしてして、指導力向上が求められている。 ○資格取得に取り組んでいるが、上位級の合格者を増やしたい。 【課題】 ○「学ぶ楽しさ」をもっと体験させ、協調学習等のアクティブラーニングに積極的に取り組む。生徒自身の学習スケジュール等の自己管理を強化させる。 ○研究授業や教員相互授業観察を実施し、教員研修を推進し指導力向上に努める。	○学習意欲を高め、伸びる生徒をさらに伸ばす。	①青陵ゼミナールなどの講習や勉強会の参加を呼びかけ、生徒の進路実現につなげる。 ②資格取得を目指させ、「川口青陵アワード」を積極的に広報し、奨励する。 ③「総合的な探究の時間」について本校の方針を定めて教材や指導内容等を検討し、３年間の指導計画を策定する。	①青陵ゼミナールなどの開講状況と生徒の参加数 ②「川口青陵アワード」受賞数10%以上。資格取得者数（３級以上）の増加。 ③「総合的な探究の時間」の指導計画を策定できたか。				
		○組織的な学習支援体制を充実させることにより、各教員の指導力向上を目指す。	①県事業による研修会や外部機関による授業力向上セミナー等への教員参加を奨励する。 ②教員相互授業観察の実施やICT機器の活用により指導力向上を図る。	①授業力向上に係る県教委や民間団体主催の研修会等の参加状況。 ②教員相互授業観察を平均3回以上実施の継続。年次研および未来学び研究開発にて研究授業を実施。教室ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰの整備。				
2	【現状】 ○進路指導部を中心に青陵ゼミナール等、進学希望者対象の講習を、年間を通して実施し、３年間を見通した進路行事計画により実践されている。 ○基本的生活習慣が確立され、生徒が落ち着いた学校生活を送れるようになった。 ○生徒が主体的に取り組み、学校行事が盛んになってきた。 【課題】 ○生徒進路実現のため、３年間の計画的で組織的な取組を実践していく。地元企業の見学機会をもっと作る。 ○今後も基本的生活習慣が確立された学校生活を継続させる。 ○学校行事において生徒の主体的な取り組みをさらに増やす。部活動加入率の向上と活動実績の向上を目指す。	○新しい入試制度に対応し、３年間を見通した進路指導の充実を図る。	①「学びの基礎診断」を実施し、民間のツールを有効活用する。また、多様な進路選択に対応した面接指導等を実施する。 ②手帳活用によるスケジュールの自己管理と記録の機会を設定して学習習慣を定着させる。	①「学びの基礎診断」として認定されたベネッセ基礎力診断テストの実施。および学校評価アンケート「進路指導は充実している。」90%以上。 ②手帳の活用状況（記録の機会の設定状況）				
		○基本的生活習慣を確立させるため、生徒指導の充実を図る。また、命の大切さを認識させる。	①整容指導を実施し、挨拶を励行する。 ②交通マナーを徹底させ、自転車やバイク乗車に係る交通安全教育を充実させる。	①学校評価アンケート「挨拶・言葉遣いができている」90%以上。 ②学校評価アンケート「服装や頭髪および交通ルールを守っている。」90%以上。				
		○学校行事に主体的に参加させ、部活動の活性化を図る。	①体育祭や文化祭などの学校行事を主体的に取り組ませ、生徒の活躍の場を作る。 ②部活動体験プロジェクトを実施し、生徒の適性にあわせた入部を促進する。部活動リーフレットによるPRとHPで活動を紹介する。	①学校評価アンケート「学校行事に積極的に参加している」90%以上。 ②部活動の加入率75%以上。大会・コンクール等での実績や成果。				
3	【現状】 ○ＰＴＡ・後援会と連携し、学校行事を運営することができている。 ○地元３校と小高交流事業を実施し、生徒の自己存在感を高めることができている。 【課題】 ○今後もＰＴＡ・後援会と連携して生徒の健全育成を図り学校運営に活かしていく。 ○小高交流事業等、地域への貢献活動を積極的に推進する。	○ＰＴＡ・後援会との連携を強化する。	①講演会等を実施してPTA総会への出席者を増やし、保護者の学校への理解を深める。 ②保護者アンケートでの意見や要望のうち可能なものを取り入れる。	①学校評価保護者アンケート「本校に通わせてよかった。」（入学満足度）90%以上の維持。 ②ＰＴＡ・後援会役員の学校行事での参加者数。				
		○地域とのさらなる協働を図るとともに、魅力ある情報発信を行う。	①小高交流やボランティア活動などを積極的に実施する。 ②生徒募集に資するように母校訪問、学校説明会や学校見学会の際に魅力ある情報発信を行う。	①小高交流事業を実施、ふれあいクリーン作戦などのボランティア活動の参加。 ②学校説明会や見学会参加者数の延べ1500人以上。				